



Our Philosophy

Slogan

ゴムの先へ。はずむ未来へ。

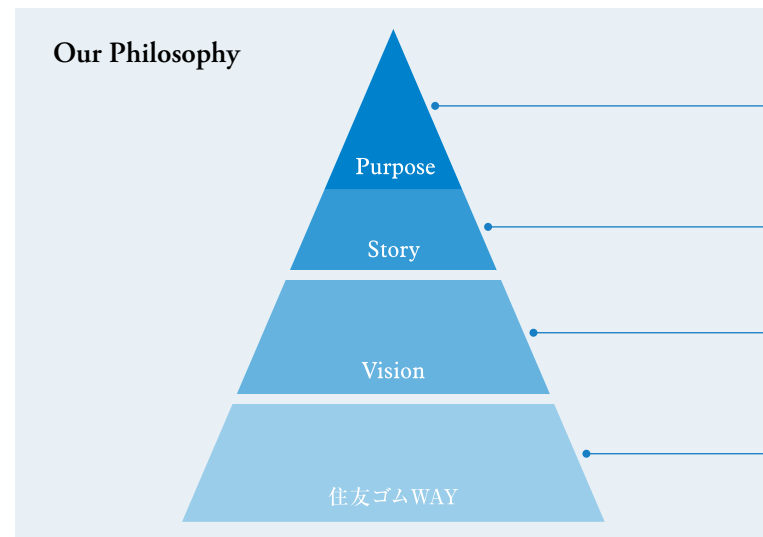


不透明で変化の激しい環境に柔軟に対応し、さらなる成長を遂げるための共通の指針が、企業理念体系「Our Philosophy」です。

約400年間受け継がれてきた「住友事業精神」を基盤に、「Purpose」を起点とした4つの概念を体系的に整理。

従業員一人ひとりが会社の存在意義を認識し、ベクトルを合わせて力を発揮するための意思決定の拠り所であり、

行動の起点となるものです。



Purpose

未来をひらくイノベーションで 最高の安心とヨロコビをつくる。

私たちが社会で活動する理由、存在意義であり、あらゆる意思決定・行動の起点です

Story

ゴム素材の可能性を誰よりも信じること。

さまざまな「世界初」をつくり出してきた最先端のゴム技術と、そこから広がる新たな技術の開発に挑戦し続けること。

お客様と社会からの信頼にこたえ、その期待を超える価値の創造にこだわること。

そして、人を、社会を、未来を支える「最高の安心とヨロコビ」をつくり出し、世界へ提供する。

「住友ゴム」は、そのために存在する。

「Purpose」の背景にある私たちの信念です

Vision

多様な力をひとつに、共に成長し、変化をのりこえる会社になる。

私たちが目指す、組織としての将来像です



住友ゴムWAY

信用と確実を旨としよう

あらゆることに誠実に向き合い、お客様、仲間、社会からの信頼に応えよう。

挑戦しよう

失敗を恐れず、困難なことに取り組む勇気を持とう。

お互いを尊重しよう

お互いをよく知り、考えや個性を尊重しあおう。

住友ゴムグループ社員一人ひとりが大切にする価値観です

住友事業精神	
創業以来約400年にわたり受け継がれてきた「住友の事業精神」	
信用と確実	「何よりも信用を重んじる」こと、 「常に相手の信頼に応える」こと
進取の精神	時代の変化に対応し、積極的に一步先を行く 姿勢であること
事業は人なり	企業を守り育てていくのは人材であること
自利利他、公私一如	常に「社会への報恩」を考え、 公益との調和を図る経営姿勢であること



オリジン(原点)・歴史

1888

ジョン・ボイド・ダンロップが世界初の空気入りタイヤを実用化

アイルランドに住む獣医ジョン・ボイド・ダンロップは10歳になる息子のジョニーに「僕の自転車をもっとラクに、もっと速く走れるようにして」と頼まれました。ジョンは実験を重ねた末に、ゴムのチューブとゴムを塗ったキャンパスで空気入りタイヤを作り、これを木の円盤の周りに固定しました。この空気入りタイヤで走ったジョニーは大喜び。ジョンはさらに改良を重ね1888年、「空気入りタイヤ」の特許を取得し世の中に広めました。



ジョン・ボイド・ダンロップ

住友事業精神の源流

住友家初代住友政友は、商人としての心得を説いた「文殊院旨意書(もんじゅいんしいがき)」を残しました。その教えは近代の「営業の要旨」を経て、住友400年の事業精神として継承され、住友グループの経営を支えてきました。「住友事業精神」には「住友の事業は住友自身を利するとともに、国家を利し、社会を利する事業でなければならぬ」という社会に対する強い使命感が込められており、住友ゴムグループの企業理念の基盤となっています。

住友政友の木像
(写真提供:住友史料館)文殊院旨意書(1650年頃)
(写真提供:住友史料館)

1909

神戸工場操業開始

英国ダンロップ社が神戸に工場を建設。日本初の近代的ゴム工場として創業。



神戸工場(1921年ごろ)

1963~

「住友ゴム工業株式会社」に社名変更

1963年に住友の経営となり、1981年、現在のFALKENブランドにつながるオートタイヤ株式会社と全面業務提携(2003年合併)。さらに1983年、英国ダンロップ社から欧州事業を、1984年には英独仏の6工場とタイヤ技術中央研究所を買収。1986年には米国ダンロップを買収して世界のダンロップの盟主に。

住友の経営になる

1999~

米国グッドイヤー社とタイヤ事業におけるアライアンス契約を締結

日本やアジアは住友ゴム、北米や欧州はグッドイヤーがDUNLOPブランドのタイヤの製造、販売を行う合併体制に移行。スポーツ事業では2003年に分社後、2007年にはクリーブランドゴルフ社を買収。産業品事業でも、2015年にスイスの医療用ゴム製品会社のロンストロフ社を買収して事業を拡大。

この間、2009年に創業100周年を記念してタイヤテクニカルセンターを開設。2015年、米国グッドイヤー社との提携と合併事業を解消。



2017~

海外のDUNLOP商標権、DUNLOPブランドのスポーツ用品事業、ライセンス事業買収

2017年、英国のスポーツダイレクトインターナショナル社から海外のDUNLOP商標権、DUNLOPブランドのスポーツ用品事業、ライセンス事業を買収。2018年には、住友ゴムグループのスポーツ事業を住友ゴムに合併して一本化。

タイヤ事業では2017年、英国大手タイヤ販売会社のミッチェルディーバー社を買収し、FALKENブランドタイヤの販売を強化。2018年の空気入りタイヤの実用化130周年、2019年の創業110周年を経て、新たなフェーズに向けて2020年に新企業理念体系「Our Philosophy」を策定。

2023年、2027年までの中期計画を策定。「既存事業の選択と集中」のため、ロンストロフ社の売却を決定(株式譲渡は2024年)。

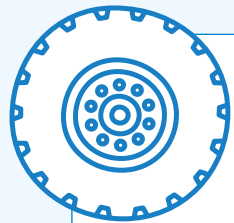
2025

米国グッドイヤー社から欧州・北米・オセアニア地域における四輪タイヤのDUNLOP商標権等取得

一部の地域や商材を除いて、当社グループがグローバルにDUNLOPブランドを展開することが可能に。さらに2035年を見据えた長期経営戦略「R.I.S.E. 2035」を策定。



住友ゴムグループの概要



タイヤ事業 P.23 ▶

—もっと、走る、喜びを。—

安全性と環境性を追求するパイオニアブランドのDUNLOP(ダンロップ)、走りを楽しむ人に向けたグローバルブランドFALKEN(ファルケン)をメインブランドとし、乗用車用、トラック・バス用、産業車両用など暮らしや社会にかかわるさまざまなシーンで活躍する人と環境にやさしいタイヤづくりに挑んでいます。



自動車用

普通乗用車からトラック・バス用など多くの自動車用タイヤをラインアップ。夏用タイヤ、冬用タイヤ、オールシーズンタイヤなど幅広い用途に対応しています。



レース・ラリー用

スピードや耐久性など、各競技で求められる用途に沿って専用開発し、レースやラリーでの活躍をサポートしています。



農耕機用

トラクタ、耕うん機、運搬車、作業機など、農業の現場で活用される農耕機に対応した製品です。



産業車両用

高荷重・低速運転などさまざまな条件に対応した製品です。用途により空気入りタイヤ、トラックシュタイヤなど複数の構造を適用しています。



モーターサイクル用

オンロード用からオフロード用、ミニバイク用からビッグバイク用まで豊富なカテゴリーの2輪用タイヤを取り揃えています。



タイヤパンク応急修理キット
パンクしたタイヤに修理材を注入し空気を充填することで一時的な走行を可能にする修理キットは、多くの車両に採用されています。

タイヤ空気圧低下警報装置



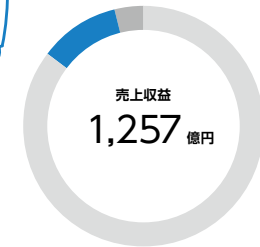
タイヤの回転により発生する車輪速信号を解析することでタイヤの空気圧低下を検知し、ドライバーに知らせるソフトウェアです。



スポーツ事業 P.25 ▶

—お客様のスポーツライフをもっと豊かに。—

高い技術力をより豊かなスポーツライフのために。ゴルフクラブやテニスラケットなど使いやすく高機能な製品を提供するとともに、ゴルフ・テニススクールの運営に取り組み、お客様の心と体の健やかな毎日をサポートしています。



産業品事業 P.27 ▶

—もっと、生きる、喜びを。—

産業品事業はハイブリッド事業本部が管轄し、これまで培ってきたゴム技術をベースに、産業インフラから医療・生活用品まで、人の命、健康、移動を守り、暮らしを守る商品を提供しています。



高機能ゴム

医療用ゴム製品 制振ダンパー



MIRAE

生活資材・産業資材

ゴム手袋 建築フロア スポーツ人工芝



樹から生まれた手袋





目次・編集方針

本書の
使い方

…関連するページに遷移します。

…関連するWEBサイトに遷移します。



…目次ページに戻ります。



…前後のページに遷移します。

住友ゴムグループについて

- 1 Our Philosophy
- 2 オリジン(原点)・歴史
- 3 住友ゴムグループの概要
- 4 目次・編集方針

住友ゴムグループの戦略

- 6 TOP COMMITMENT
- 10 価値創造モデル
- 11 住友ゴムグループのマテリアリティ(重要課題)
- 12 長期経営戦略「R.I.S.E. 2035」
- 16 財務ハイライト
- 17 財務担当役員メッセージ
- 18 サステナビリティ長期目標 「はずむ未来チャレンジ」
- 19 クロストーク：サステナビリティ×人事×財務

事業活動

- 23 タイヤ事業
- 25 スポーツ事業
- 27 産業品事業

成長基盤としてのサステナビリティ

- 30 イノベーションによる競争力強化
- 35 持続可能な地球環境への貢献
- 38 ステークホルダーとの強固な関係構築
- 41 多様な力をひとつに果敢に挑戦できる組織
- 45 従業員鼎談：はたらきたい未来の工場プロジェクト
- 48 コーポレート・ガバナンス
- 55 株主・投資家とのコミュニケーション
- 56 社外取締役鼎談：住友ゴムグループのガバナンス最前線
- 59 社外からの評価
- 60 第三者意見

会社情報

- 61 財務・非財務データ
- 63 会社情報・株式情報・投資家情報

編集方針

統合報告書の編集にあたっては、主な想定読者である機関投資家にフォーカスし、投資判断に資する情報の掲載を優先しました。これにより「統合報告書2025」は、簡潔かつ成長に向けたストーリーを軸とした内容としました。多様なステークホルダーに向けた網羅的な情報は、WEBサイトに掲載しています。

従来の統合報告書では約100ページに達していたボリュームを約60ページに削減しました。必要に応じて関連情報を掲載したWEBサイトにリンクする形で補完しております。統合報告書とWEBサイトをあわせてご覧いただくことで、住友ゴムグループの持続的な成長の道筋をより深くご理解いただくことを目指しました。

対象組織

住友ゴム工業(株)、国内6工場を中心に、一部国内外の拠点や関係会社の情報を含みます。

参考にしたガイドライン

- 経済産業省「価値協創ガイドライン2.0」
- IFRS財団「国際統合フレームワーク」
- GRI(Global Reporting Initiative)
- 環境省「環境報告ガイドライン2018 年版」

発行

2025年6月

免責事項

本報告書には、住友ゴムグループの過去と現在の事実だけでなく、将来の計画や見通し、経営計画などに基づいた予測が含まれています。これらの将来予測は、記述した時点で入手できた情報に基づく仮定・判断であり、将来の結果は予測とは異なったものとなる可能性があります。

報告対象期間

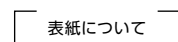
2024年度(2024年1月1日～2024年12月31日)を中心に、一部期間外の情報を含みます。

統合報告書2025のポイント

「統合報告書2025」では、2035年に向けた長期経営戦略「R.I.S.E. 2035」を軸に、当社グループが中長期的にどのように価値を創出し、ていくのかを詳述しました。特に、TOP COMMITMENTや価値創造モデルを通じて、長期経営戦略の具体的な道筋を示しています。

また、住友ゴムグループが長年培ってきた技術力と、それに基づく製品を紹介する「イノベーションによる競争力強化」や、製造業が直面する生産現場の課題に取り組む「はたらきたい未来の工場プロジェクト」をテーマとした「従業員鼎談」といった内容を掲載。基盤強化に向けた具体的な取り組みについても注目していただきたいポイントです。

本報告書をご覧いただき、忌憚のないご意見を寄せいただければ幸いです。



表紙について

住友ゴムグループは、ゴム素材からさまざまな「世界初」をつくり出してきました。「空気入りタイヤ」から始まった技術は発展し続けています。変革のスピードを緩めることなく、2025年を転換点とする想いを表現しています。

統合報告書の位置付け クリックするとWEBサイトに遷移します。

成長可能性を示す

